楽しく、効果的な下見をしましょう

静岡県県立朝霧野外活動センター
（日本キャンプ協会グループ）
令和４年３月１日

　野外活動の成否は、「準備８割」と言われます。計画した行事を、ねらいに沿って、安全に、効果的に、そして楽しく実施知るためには、時間をかけ、丁寧に準備する必要があります。
　そのために欠かせないのが「下見」です。
　行事を実施するたびに必ず「下見」をする目的と実施方法について、説明します。

1　下見をする理由

(1) 子供たちに提供する活動から、どんなことが体験できるか、教員が実際に体験して理解するため

(2) 体験をとおし、何を、どのように理解するか、その体験プロセスを、教員が体験的に理解するため

(3) 活動がどのように運営されるか、活動体験をとおして理解するため

(4) 活動に含まれる安全上配慮すべきリスクを把握し、適切な対応が取れるよう準備するため

2　下見を実施する時期

実際に活動するのと同じ時季がよい

「一か月前」を目処に実施する

(1) 天気や気温の条件が近く、気象条件によるリスクを確認できる

(2) 自然の景色が変わらないため、適切な指導ができる（葉の色や量が変わっているだけで、現在地がわからなくなることがある）

3　下見の方法

(1) 提供する予定の活動を、実際と同じ方法で行う

(2) 活動を指導したり、安全確保を担当したりする、教員全員が行う

下見の情報は、できるだけ多くの目を通して集めます。

3-1　適切でない下見の方法

(1) 自動車や自転車など、実際と違う方法で下見をする

実際に起こりうる安全上配慮が必要なリスクに気づけなくなります。

距離や時間の間隔をつかめず、道迷い等の発生時、適切に対応できなくなります。

(2) 行事や活動の担当者のみで下見をする

活動体験がなく、活動の理解が不足した状態の教員が増えるため、全体として適切な指導が難しくなります。

キャンプの下見で、陣馬の滝の水遊びを体験

4　下見で見ておくポイント

(1) コース

地図とコンパスを使います。ルートだけでなく、フィールド全体のイメージも把握します。

(2) 所要時間

任意の地点を複数設定して、その地点館ごとの所要時間を確認します。

(3) 危険（と思われる）箇所

命や重大なケガにつながる明らかな危険のほか、子供やグループによっては危険なこと、許容できると思える危険などをリストアップします。

(4) 公衆便所の位置

コース上の他、周辺の観光施設等の位置も確認します。

(5) 休憩できそうな場所

食事がとれたり、ある程度の人数を集めたりできそうな場所を探します。

牧草地、畑、牧場、民家等、立ち入り禁止の場所でないかも確認します。

(6) 緊急時に、緊急車両が入れる道

ケガや急病等による要救助者をピックアップできる場所を把握します。

(7) 緊急時に避難できそうな場所

天候の急変で一時的に避難したり、一時的に子供達を集められる場所を探しておきます。休憩場所と一緒でも良いです。

(8) 緊急時やコース変更の際、通ることができる道

エスケープルート。当日の状況に柔軟に対応できるよう準備します。

(9) コースの見どころや遊べる場所

子供たちが興味を持ちそうな物や場所を、教員が実際に遊ぶ事をとおして想定します。子供目線での危険に気づきやすくなります。特に、水辺での確認は必須です。

(10)医療機関の位置

施設からの道順や所要時間を把握します。

5　下見レポートを作る

(1) 下見で得た多くの情報を記録する

(2) 教員各自が集めた情報を、全体で共有する

(3) 危険箇所の情報は、共有し、それぞのれの危険箇所の評価と対応を決める

(4) これらの情報を共有しやすくするツールとして作成する

5-1　下見レポートの作り方

(1) なるべく簡便に作る

(2) 下見を行う際、写真や映像で記録する

(3) 写真は、撮影した場所で得た情報や感じたことをメモ帳に書き留める

(4) 映像は、音声でコメントを録音する

(5) 下見で使う地図に、集めた情報を直接書き込む

(6) 下見レポートは、各自が作っても、全体で一つ作っても、どちらでも良い

5-2　下見レポートの使い方

(1) 危険箇所を全体で確認し、対応を検討する

(2) 休憩場所や緊急避難先等を検討する

(3) 教員が立ち、安全管理する場所等を決める

(4) レポートをもとにコースを再検討する

(5) 下見に参加できなかった教員と情報を共有する

6　持ち物

(1) 地図とコンパス

地図は各自一枚、必ず持ちます。

(2) 腕時計

(3) 筆記用具

(4) カメラ

(5) 携帯電話

(6) 雨具（カッパ）

ジャケットとパンツに分かれたものを、晴れていても必ず持ってください。

(7) タオル

(8) 行動食（アメ、チョコレート、ナッツなど）

塩分を含むものは、熱中症予防にも有効です。

(9) 飲料水

教員は、お茶等の他に水を持ってください。

(10)救急用品

ちょっとしたケガに対応できるものを、

全員が持ってください。

(11)ヘッドランプ（懐中電灯）

　日没後や霧の発生時に使用します。各自が持ってください。

(12)楽しむ気持ち

　まずは大人が楽しむことが、とても大切です。その雰囲気が子供たちに伝わります。

7　参考になる資料の紹介

(1) 朝霧野外活動センターのホームページ等からダウンロードできるもの
https://asagiri.camping.or.jp

1)　安全対策マニュアル①管理体制図及び事故・災害対応マニュアル
2)　安全対策マニュアル② 感染防止対策
3)　安全対策マニュアル③嘔吐等発症者発生時対応マニュアル
4)　安全対策マニュアル④野外活動実施時における安全対策マニュアル
5)　安全なキャンプのために ((公社)日本キャンプ協会編)
　Part1 家族で行くキャンプの安全について
　Part2 キャンプでの一般的な危険について
　Part3 野外調理編
　Part4 危険を学ぶ
　Part5 水辺の活動の安全
　Part6 野山の活動の安全
　Part7 事故事例に学ぶ
　Part8 楽しく学ぶキャンプの安全
　Part9 役に立つファーストエイド
　Part10リスクマネジメントの手引き
6)　青少年教育施設を利用する団体指導者のための利用者ガイド (静岡県教育委員会編)
7)　青少年教育施設を利用する教職員のための利用者ガイド (静岡県教育委員会編)

(2) 野外教育に関する専門書

1)　野外教育入門シリーズ第1巻　野外教育の理論と実践　（杏林書院）
　ISBN：978-4-7644-1581-2
2)　野外教育入門シリーズ第2巻　野外教育における安全管理と安全学習　（杏林書院）
　ISBN：978-4-7644-1582-9
3)　野外教育入門シリーズ 第3巻 水辺の野外教育　（杏林書院）
　ISBN：978-4-7644-1583-6
4)　野外教育入門シリーズ 第4巻　障がいのある子どもの野外教育　（杏林書院）
　ISBN：978-4-7644-1584-3
5)　野外教育入門シリーズ第5巻　冒険教育の理論と実践　（杏林書院）
　ISBN：978-4-7644-1585-0